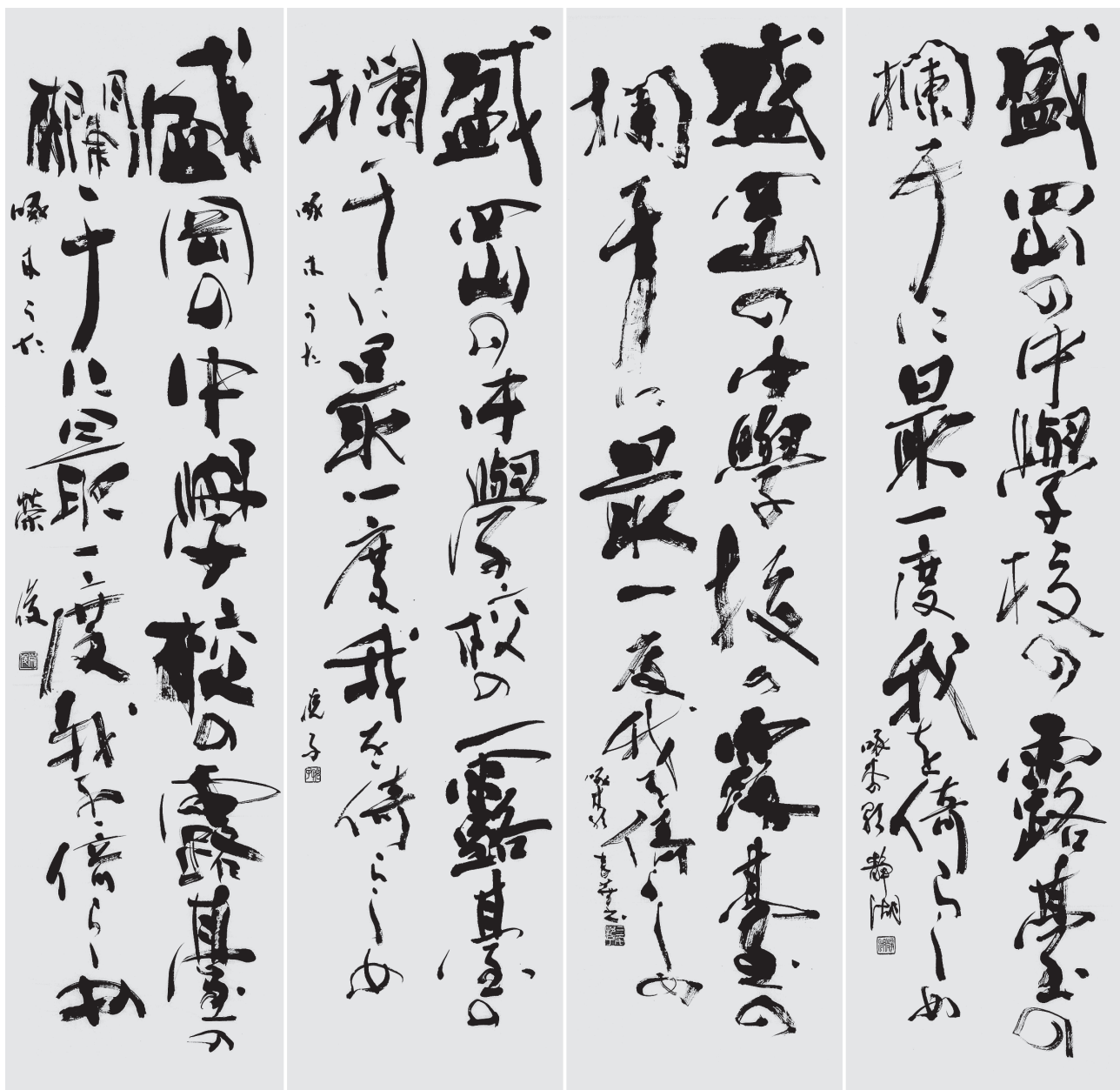


伊藤漠仙先生選評



赤石 静湖 推選
心に安らぎを与える雰囲気がある作品で、全体の構成力が見事です。白と黒の調和が素晴らしく、特に二行目の自然な縦への流れは流石です。落款も優。

三宅 春華 推選
作品を見た瞬間に、目に飛び込んでくる強烈な潤渇の変化がこの作品の特徴です。「中学校」の造形と「干」の縦画に魅力を感じます。文字の大小も巧みです。

江川 悦子 推選
啄木の心境を良く理解して書かれた、情緒的な作品です。平仮名と漢字の対比が勝っていて「学校・露臺・欄・倚」の字形が秀でています。全体のバランスが秀逸。

青木 榮俊 推選
打楽器を打ち鳴らす様な独特な用筆に好感が持てます。一字の中の太細の変化、潤渇、文字の大小等、章法が上手です。文字の表情がとても可愛いですね。



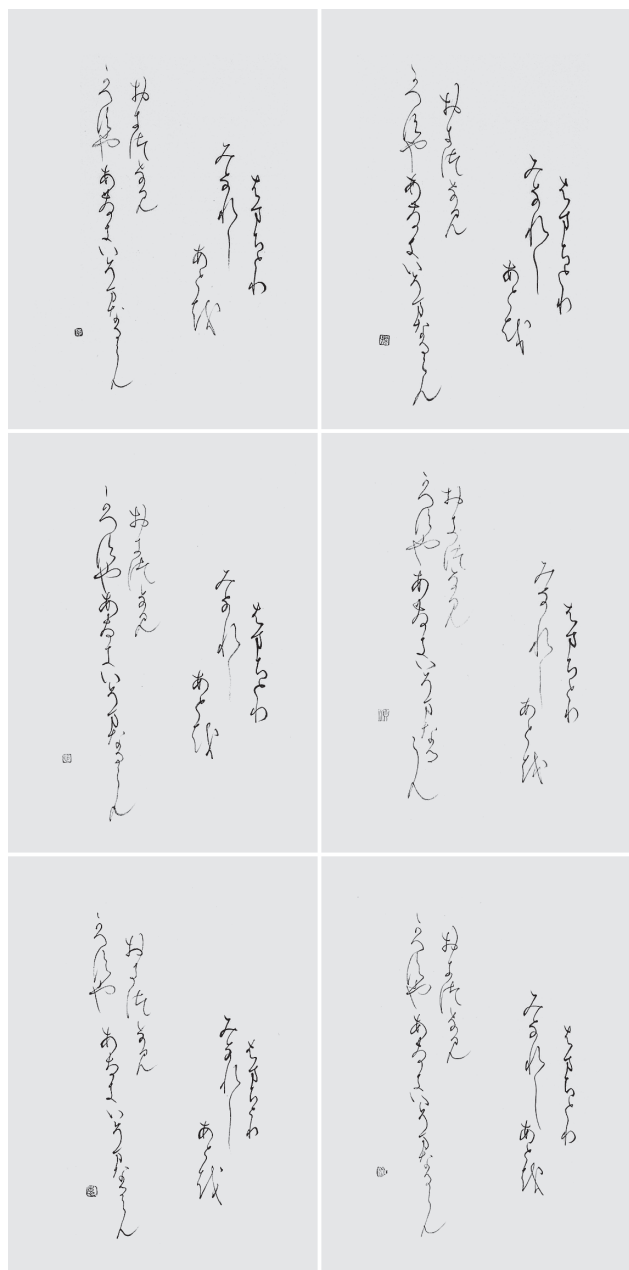
橘川 江楊 推選
ゆつたりと深い線で逆筆、
藏鋒も良く出来ており、い
い筆をお使いの様で程良い
渴筆が作品を明るく見せた。
何本が見られる抜いてしま
う横画の終筆が気になる。

田尻 和景 推選
所々字形、線の方向など隸
書に見えるが、やはり深い
線でじっくり引けており、
論經の雄大さを充分に表現
出来ています。渴筆が少し
欲しかったですね。

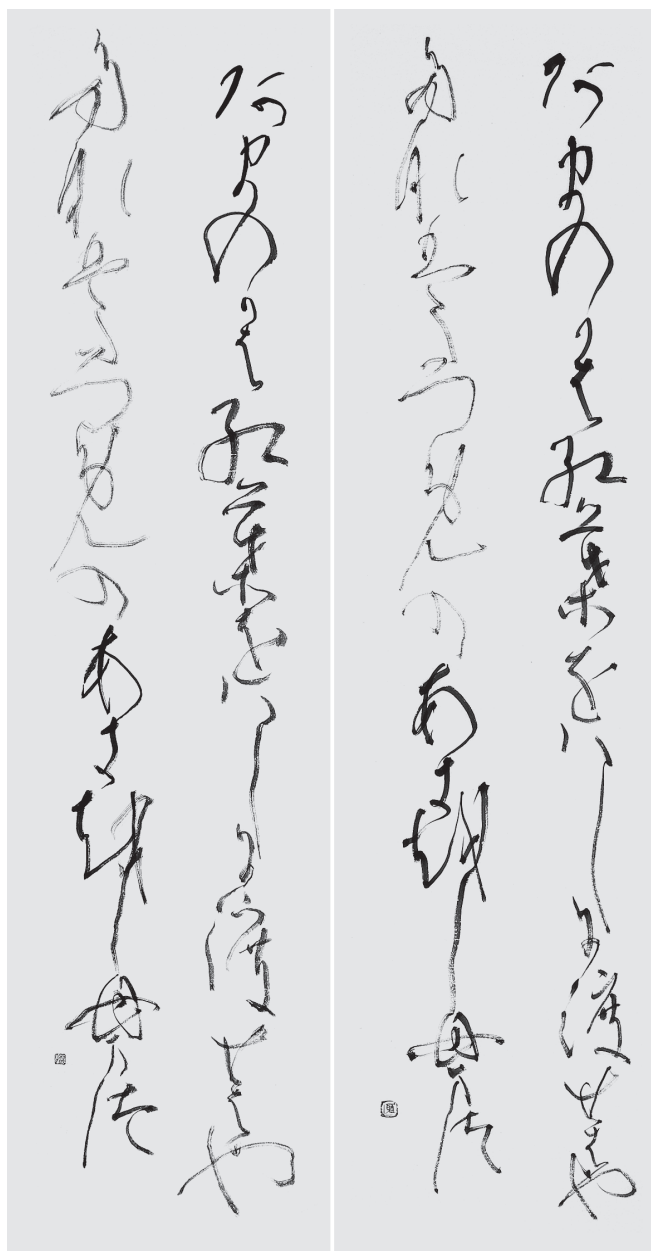
及川 梢夏 推選
一字目つぶれすぎて墨量少
ないが、下二字の白の取り
方、落ち着いた線質、表情
が一際目を引きました。程
良い力加減と角度の転折素
晴らしいです。

伊東 慶花 推選
墨量充分で動き大きく堂々
とした気迫溢れる作品にな
りました。一つ気になるの
は転折です。前者とは違い
右肩が下がり筆圧が強すぎ
て造像記に見えます。

佐賀道子先生選評



吉澤真理先生選評



塚越渉空 七段
起筆・送筆・転折の筆遣いに古筆への確かな観とがあり、淀みなく流れる筆線は暢びやかで自由闊達。練度の高さを見る。

小宮遥山 六段
筆の上下動による厚みのある線と抑揚のリズムが魅力的。見ごたえのある作になりました。後半、行間の取り方惜しまれる。

田村恵子 三段
文字の大小・疎密の変化の捉え方もよく流れが貫通しており美しい。真摯な学びの姿に好感。更にくい込む線を意識してみよう。

仲山栄子 師範
穂先効き暢びやかに抑揚の変化のある筆線は、小島切の情趣を遺憾なく發揮しています。余白の美しい作となりました。

五月女順子 師範
力みのない穏やかな運筆でつつましく流れる美しい。特に渴筆部分の呼吸の深さが佳。あと少し墨色を濃くすると更に生き生きとした作に。

山本弘美 準師
絹糸のような細線ながら筆管をしつかり立てた爽やかな筆線は、凛として小島切の旋律を奏でています。

上原 加代子 推選
参考作品の読み取り度が高く、堂々とした作品です。練度の高い伸びやかな線とリズムに乗った筆運びが作品を大きくみせています。

青木聡美 推選
古筆の繊細で弾力ある線を取り込みながら、自分らしさも加味した作品に仕上げられています。渴筆部分の線の浮き沈みの変化で美しい流れができました。

葛西玄涛先生選評



芳賀瑠月 師範

横画の起筆の角度を統一して、力強い線をしっかりとたくさん引いている。文字造形を原帖に近づけて、より正確な古典の臨書だと思っています。

浜崎葉子 師範

送筆の速度を速めることで、鋭い表現に貢献する渴筆が適度に配置されている。渴筆の配合の効果を狙う制作のお手本となるような傑作です。

吉田藍夏 準師

一文字目はやや重めで慎重。二文字目は少し肩の力を抜いて爽やかにと、二文字に種々の要素を含ませながらも、全体に愛らしき空気を漂わす。

山田真美 準六

自信をしっかりと持った運筆が紙面から感じられる豪快な作。特に終筆では、高い位置へ筆を運ぶことを心掛けていて、迫力を倍増させている。

泷澤敏美 準五

涼感を得るほど爽快な線で仕上げています。長い線に大きな柔らかい動きから生まれた線は勿論、短い線も指の力を抜いて軽妙に書いている。

砂川俊平 三段

とても真面目に臨書をされています。字形、線質、余白、名前の字形など、どれも真剣さが伝わってきます。是非、楽しく書き続けてほしいです。

宮内悦子 師範

豊富な線質を随所に見せながら安定した作品に仕上げられています。渴筆を少し出すことによって遅速の変化が明確となり、立体感が生じたようだ。

矢野翔佳 師範

迫力は一番でしようか。思い切りのよい大きな動きで押し切られてしまいが、細かな文字の傾きや表情がよく研究されていて好感を持つ。

折川範子 準八

さらさらとした筆運びで、一瞬は弱く見えたが筆管をきちんと立てながら腕をしっかりと動かした直筆で自然に書かれている。滋味ある作です。

桜井信吉 四段

忠実な臨書を心掛けていることが伝わってきます。顔真卿の重厚な線を強く印象づける表現と紙面への字配りは、とても高い水準にあります。

玉井明子 四段

画数の少ない文字を大胆に書くことで、他の字との調和を保ったところが素晴らしい。この動きを大きな作品にも生かして活動してほしいです。

安永頼光 準四

直線的な動きの中で、重厚さを表現し細いかと思ったが、遅速の変化で楽しく表現されていて、とても良い方向にあります。